



# いわいしま通信

## 8年ぶりに神舞神事が開催されました

8月16日～18日の三日間、8年ぶりに神舞が開催されました。今回は、日程の短縮や、会場が体育館になるなど、今までの神舞とは変更された点多かったのですが、無事に開催されたことが何よりでした。猛暑の中で準備に汗を流した島の人たち、練習を重ねて見事な神楽を奉納して下さった伊美の人たち、お互いの努力で築いた「千年の絆」が今回もこうして「神舞」という祭りで繋がったことをとても誇りに思いました。また4年後に開催されることを願っています。



三浦湾から集落へ向かう御座船



入船神事の櫓伝馬船



島に上陸して舞場まで向かう行列



華やかな切り飾りの下で神楽が始まる



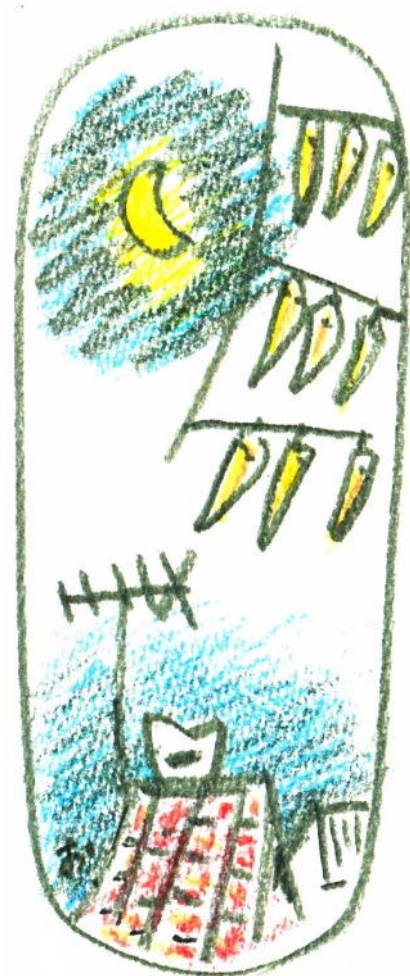
祈願神楽  
やはりこの舞が一番盛り上がる



出船神事  
御座船から手を振り別れを惜しむ

### 目次

神舞神事が開催されました	1
祝島・記憶の玉手箱	2
会員リレーコラム	4
「植物の宝島」事業	5
うっちーさんの観察日記	6
神舞で繋がる縁	8
会員交流会 in 東京	10
祝島自由律俳句	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12



「祝島物語」 画・大井しげる

## <連載> 祝島・記憶の玉手箱(34)

## ～ 上関村連合青年団の総会 ～

語り部: ひろちゃん

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。今回は祝島や上関が若者で溢れていた戦後、上関村連合青年団を結成し、互いに交流しつつ、凌ぎを削っていたというお話を、上関のひろちゃん(94歳)に聞かせていただきました。

**司会:** こんにちは。今日のはかつて青年団の陸上競技大会で祝島にもよく来られていたという、上関のひろちゃんにお話を伺います。足が速くて祝島でも人気者だったと聞いてますが、いつ頃の話ですかね？



当時を語る ひろちゃん

**ひろちゃん:** 終戦後、青年団が若い者の集まりをしようじゃあなあかいうんで、上関村の連合青年団ちゅうんが出来たのいね。わしも20歳くらいだったんじゃが、祝島の氏本さんらが歳が上じゃったいね。それが終戦後3~4年経って後くらいじゃったかのう・・・上関村の連合青年団を作ろういうて組織を作ったんよ。

**司会:** その時、ひろちゃんはもう働いていた？

**ひろちゃん:** おー、その時はもう役場に勤めよった。じゃけえ、終戦後2~3年じゃったか、3~4年じゃったか、そりょうよう覚えちよらんのじゃが。

**司会:** 当時はまだ上関町じゃなくて上関村だった？

**ひろちゃん:** そうそう、まだ室津と合併してない頃いね。その時に、せっかく連合青年団を作ったんじゃけえ、青年団として何か一つの事業をやろうじゃあなあか、というのが元々の始まり。

**司会:** なるほど。

**ひろちゃん:** まあ。文化を向上するとか、そういうような目的でね。言うなれば、終戦後何もできんじゃったから、若者を集めてからみんなで、ワイワイガヤガヤいう中で、組織を作たらどうじゃろうか言うんで、集まった人間が・・・祝島から上関から全部の部落の若いもので世話役じゃった人を集めてから、連合青年団いうんが出来たんじゃ。そいて、せっかく集まっ

たんじゃけえ、何か行事をやろうじゃあなあかいうんで、まず青年団の集まり、総会をやろういう話になったんよ。ほいて、集まるんなら何か課題を作ってやろうじゃあなあかいうて、午前中は弁論大会をやって、午後から陸上競技をやってみようじゃあないかいう話が出たんよ。それが、何でか言うたら、先輩らがずっと戦前にやっちょるんじゃ。

**司会:** へえ～、もっと昔にもあったんですね。

**ひろちゃん:** 戦前にやりよった伝統があるんじゃけえ、その伝統を消す訳にいかんけえいうんで、連合青年団の総会を5月の第一日曜にやる事が決まったんよ。この日が一番日和がええ臯月の空で、戦前もこの日にやりよったけえ、この日がええんじゃろういうことになったんよ。

**司会:** なるほど。

**ひろちゃん:** それで総会を各分団ごとに持ち回りでやるいうことになってねえ。ほいじゃがやれん所もあるけえ、上関と白井田と、それから四代と祝島と、この4地区ですっと回してやろういうことになったんよ。毎年ね。

**司会:** なるほど。開催場所は4か所で持ち回りだったんですね。

**ひろちゃん:** 八島と蒲井と戸津は、やれる場所が何もないけえ、やれんちゅうことになってね。それで上関と白井田と四代と祝島と、この4つでやろういうことになったんじゃあ。

**司会:** 分団としては全部で7つ？

**ひろちゃん:** そうそう7つあった。

**司会:** 総会の際は何人くらい集まったんですか？

**ひろちゃん:** 多いときは500人くらいおったかねえ。

**司会:** おー、すごい！

**ひろちゃん:** 上関でやる時は、祝島の者も、石丸の船とか、ああいう大きな船に乗ったり、それから漁船の大けなのは何杯も乗り込んで来ようったんよ。今の上関大橋の辺の海峡に通りがかったら、太鼓を鳴らしてねえ、祝島の応援歌を歌うてねえ、上関の港に着くまでは大変な賑わいじゃったいね。それが祝島だけじゃあなあ、四代も八島もじゃけえ。

**司会**：へー、すごい賑やかだったんですね。

**ひろちゃん**：とにかく会場まで太鼓と応援団でワーワーやりながら行ってねえ。上関はこの上の小学校の運動場でやったんよ。そいで、朝は弁論大会、昼からは陸上競技、ということで、昼からはお互いに凌ぎを削ってね。上関は運動場いうても、つい50mくらいしかないんじゃないけに、100m走でも1周半くらい回ったりしてからねえ。白井田に行ってもそう。長い競技は400mまであったいね。それらあでも、みな測って何周も回ったいね。

**司会**：400mだと本当に何周も回らないといけないですよ。数えるのが大変そう・・・。

**ひろちゃん**：そうそう、何周半で400mとか、200mとか100mとかやってねえ。それを男女走りよったわけいね。そしたら、各分団が応援団を作って、そいで応援団長が出て、踊る者がおるのい、前に来て踊るのが、あっはっは。応援団がおって、そいでみんなが歌うのいね、応援歌を。「勝〜つと言われた神様にい〜♪」言うてねえ。

**司会**：替え歌？そういう応援歌があったんですね？

**ひろちゃん**：そりゃあ、上関だけでも6つくらいあったんよ、応援歌がねえ。祝島も、戸津も、蒲井も、とにかく各分団ごとにみな応援をせるんじゃないけえ、そりゃあ凄まじかったいね。

**司会**：いや〜、本当に賑やかだったんですね。ところで、競技としては、さっきの100、200、400mの他には？

**ひろちゃん**：リレーももちろんあったよ。リレーも盛り上がったねえ。それから、走り高跳び、走り幅跳び、棒高跳び。

**司会**：棒高跳びもやってたんですか？

**ひろちゃん**：おー、棒高跳びもあったよ。へっへっへ。あと、砲丸投げ。いちおう日本でやりよるような競技で、上関のグラウンドでできる範囲内の競技はやりよったいね。

**司会**：ひろちゃんは何の種目に出場したんですか？

**ひろちゃん**：私はねえ、100、200、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げ・・・あと棒高跳び。あれだけ全部出ようった。100やら200mはいつでもトップじゃった。最優秀選手賞を何回も貰うたことがあるいね。



総会に出場した祝島チーム

**司会**：さすが！人気者にもなりますねえ。

**ひろちゃん**：最優秀選手ゆうなあ、はあどっちか言うたら、種目をよけえ出て、1位か2位になったものが貰うようになっちゃうんよ、大体が。

**司会**：ところで、祝島で開催した時はどうでした？

**ひろちゃん**：4つの地区で唯一100mの直線コースがとれたのが祝島のグラウンドよ。嬉しゅうてねえ、まっすぐ走れるのが。ほいじゃが、端から端までギリギリじゃけえ、いよいよ向こうの端から走ってねえ、反対側の岩場になっちゃう近くまで走ったいね。今の小学校の方から中学校の方に向けて走ったんよ。

**司会**：祝島で速かった人を覚えてますか？

**ひろちゃん**：そりゃあ、祝島はねえ、わしを敵（かたき）にして、みんなが「原田に負けるな！」言うんで。お寺の石丸先生の兄弟、たっちゃんいうんがおいね。あれが先生をせながら一生懸命練習せよーったらしい。終いにゃあねえ、あれにわしが負けよったいね。ものすごい練習したらしいんじゃないけあ。始めの頃は、わしの方が勝ちよったが、その後にもまた2〜3回やったことがある、その時はねえ、たっちゃんの方が速かったいね。すごい練習したなあ思うたよ・・・。あと、よう走りよったのは、石丸のタロクさあ、原田のヒンデーさあ、唐木、ほいて女子じゃあねえ・・・あーどうじゃろうかのう、名前が変わっちゃうけえねえ、思い出さんのう・・・。わしらの種目に出るのが一生懸命じゃったけえ、あんまり覚えちゃうんう。あー、あんたとこのお母さんも走りよった！

**司会**：え〜っ！？ と、ビックリしたところで、時間がなくなってしまいました。今日はここまでにしましょう。楽しいお話をありがとうございました。



私の住む函館の風景です

はじめまして。今年祝島ネット21に入会しました小川真知子です。北海道の函館に在住しています。

祝島は父方の祖父母の故郷です。退職したのを機に、岐阜に住む義姉と共に、今年4月に祝島の地を踏みました。2泊3日の旅。滞在は1日半と短かったのですが、心に残った場面・想いを一部ですが、お話致します。

定期船乗り場に出迎えてくれた國弘さんの案内で歩いて少し行くと、見たかった練堀に出会いました。嬉しくなり、ゆっくりと歩みを進めて、まもなく宿に到着。玄関前には井戸があり、子供の頃を思い出したタイムスリップした気分。生活に無くてはならない水を常時確保できているのは、とても良い事ですね。地元では小川の名を“おがわ”でなく、“こがわさん”と呼んでいることを知り、来てみてわかった新発見。面白いなと思いました。食事には瀬戸内海の活きの良いお魚と、ひじき、タケノコ、みかん、石豆腐など地元の食材が豊富に使われていて、一品一品を楽しみました。とても美味しかったです。



民宿の前にある井戸  
祝島ネット21の協力で手押しポンプが復活

翌日、宿周辺の名所を案内していただきました。祝島小学校に続く階段沿いの石積みは、重機無しの手作業で造り上げたと聞き、

これぞ地元先人の技術と知恵の賜だと感心しました。グラウンドから瀬戸内の海と島々を眺めていると、時が止まったような、懐かしい気持ちになり、心地良さを覚えました。万葉の碑には和歌が2首刻まれていて、万葉集に祝島が登場するとは凄いなと、嬉しくなりました。この島は遠い昔から旅人達の通航の安全を守っていたのですね。

1100年以上前から伝承されている神舞は、今年8年ぶりに開催されました。私はYouTubeで入船神事の映像を観ましたが、皆さん、気合が入っていて、大勢の見物客を前にして立派に神事を務めていました。インタビューに答えた地元の年配の女性が「若い人が、よくここまで頑張った」と感慨無量のご様子だったのが印象的でした。伝統の神舞を成功させたいという人々の熱い思いが凝縮して、人手が少ない中、膨大な準備をこなし、やり遂げたのだと思います。

島民の人柄に触れることが多々ありました。海沿いを散歩していると、背後から「猫の糞があるから気をつけて」とご婦人の声。足元の前方を見ると糞が落ちていて、ネコちゃんの多い地元の方ならではの咄嗟のアドバイスで、和やかな気持ちになりました。小路を歩いている年配の女性が「今、診療所に行った帰りよ」と、なにげなく話をされたり・・・。定期船の待合室の椅子に腰かけていると、義姉の近くに虫が飛んできました。すると少し離れた所に立っていた青年が、義姉が気付く前に、家族に対するようなしぐさで虫を追い払ってくれました。その様子を見ていた私は、ほっこりしました。

祖父母が祝島から北海道の帯広に移住したのは、明治中頃～後半です。この地域は北海道の中でも冬の寒さが特に厳しく、明治35年に氷点下38.2度を記録しています。祖父母は冬の寒さを嘆いたことでしょう。祖父は麴屋を、祖父の弟は酒屋を営みました。島民が酒造りの仕事に出かけていたお話を聞いた時、もしかして祖父兄弟は酒造りの出稼ぎの経験があり、その関連の仕事で北海道で始めたのではないかと、思いを巡らせました。古代、祝島には祝(ほうり)の神職が置かれていたとのこと。神事に必要な酒を造る技術が後世に引き継がれてきたのでしょうか。その後祖父は大家さんをしていましたが、祖母と共に父の住む函館で余生を過ごしました。

私にとってこの旅は、祝島を肌で感じる事ができ、とても満足していますが、気になるのは、原発と人口減少の事です。島の人々は海と生活を守るために、40年以上前から上関原発の建設反対を訴え、体を張って闘ってきました。そのパワーに心を動かされます。暮らすということの原点を見たような気がします。原発と使用済核燃料中間貯蔵施設の建設が中止となることを切に望みます。

最近、祝島にギャラリー「えん」がオープンしました。展示、イベントなどの楽しみが増えますね。会員は宿泊できるとのこと。居心地良い環境を整備することで、島外からの人が来やすくなります。島民の様々なチャレンジが、祝島の明るい将来に繋がると思います。また、地元の産業・仕事が増えることを期待しています。

私の友人が祝島を応援しています。15年位前のこ



学校から見える瀬戸内の風景

とですが、当時新聞に掲載された祝島の原発をテーマにした記事を送ってくれました。最近では祝島の特産のびわを毎年届けてくれます。今の私にできることは、豊かな自然と長い歴史があり、人情厚い祝島のことを、友人や周囲の人達に積極的に伝えていくことだと思っています。再び祝島を訪れたいです。

## 「植物の宝島」事業について

國弘 秀人

祝島ネット21で応募した事業テーマ『「植物の宝島」で新たな魅力発見・祝島』（略称「植物の宝島」事業）が、日本離島センターの令和6年度離島人材育成基金助成事業に選ばれました。この事業の概要を紹介します。

### ◎事業テーマ

『「植物の宝島」で新たな魅力発見・祝島』

### ◎実施期間

令和6年9月1日～令和7年2月28日

### ◎事業の目的

自然豊かな祝島の山道で見られる草花の名前や特徴などを知ることで、山歩きの魅力を引き出し、観光資源としての可能性を高めると考えられます。特に、今でも人気のある「平さんの棚田」までの約4kmの山道で植物を愛でつつ歩けば、その往復も、より一層、楽しめることでしょう。

貴重な植物や、山道周辺で多く見られる草花や樹木を調査し、島に自生する植物についてまとめて、多くの人に「植物の宝島」としての祝島の魅力を知っていただけるような事業を行いたいと考えています。この事業の成果によって、祝島の新たな魅力

を発見し、祝島を訪れることをより一層、有意義で楽しいものとし、島への旅行者や出身者のUターンが増えることを期待します。

### ◎具体的な取り組み

①グリーンアドバイザーの内田祐介さんを講師として招き、祝島の植物調査をしていただきます。

②植物情報満載の島の山歩きルートのパンフレット（山歩きマップ）を作成します。

③講師と共に山を歩く観察会を開催します。

④調査報告を兼ねた冊子を製作します。

⑤期間の最後に、島民の方や島外で植物に関心のある方を対象に報告会を開催し、「植物の宝島」としての祝島の魅力をPRします。

### ◎目標

今回は半年間の事業ですが、できれば3年間継続して行い、調査データをまとめて再編集し、「祝島の植物図鑑」を製作したいと考えています。

### <ご協力のお願ひ>

観察会や報告会への会員の皆さんの参加をよろしく願ひいたします。また、山歩きマップ作りなどでも、ご協力いただければと考えています。

おっ！第一便の船が島に到着したみたい。ブーッブーッという汽笛の音で目が覚めました。ぼんやりしたまま島に降り立つと、そこはベールに包まれた幻想的な世界ではありませんか！あれ？どこに辿り着いてしまったの…ここはもしかして伝説の蓬莱山！？おおっと、いつもの妄想です。冷房の効いた船内から降りた瞬間にムワっとした空気に包まれて、秒でメガネが曇っただけ。慌ててメガネ拭き拭き辺りを見渡すと、船を待つみなさんと変わらぬ島の景色に



祝島に到着した定期船「いわい」

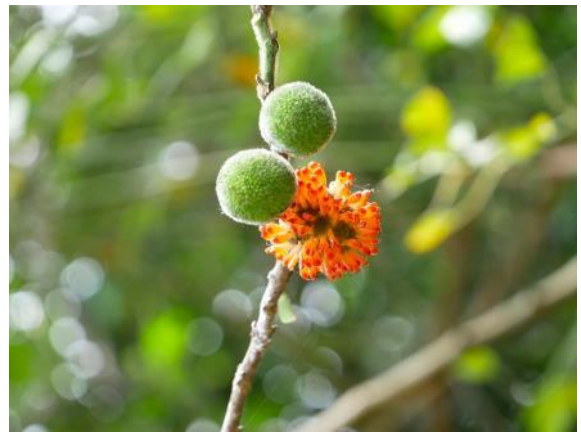
ホッとひと安心。

しかしまあ今年の夏の暑さは尋常ではありません。ビヤクシンにとまっていたセミが「みーん、みんみんみんみん、プビーッ！！」と、魂を振り絞って全力鳴きしていたかと思ったら、コテンとひっくり返っちゃった。

私はまずココロの果実を見ておきたくて小学校へ向かいました。体育館では神舞の準備の真っ最中で、山のほうからは動力運搬車の音が近づいてきます。みなさんもまだ涼しい朝一番に仕事を済ませようって算段なのでしょう。元気に咲いていた花壇のヒマワリにパワーを注入してもらったら、夏の花探しに出発～。

歩いているうちにだんだん暑さには慣れてきましたが、玉のように湧き出てくる汗は止まりません。摂った水分がダイレクトに汗に変わって出ていく感じ。ときおり翅の青いチョウが腕にとまって汗をチューチュー吸っているのが面白くて。チョウも塩分チャージで熱中症対策かも？

樹林内に一步踏み入ったとたん耳元が騒がしくなりました。事前に虫除けスプレーの液を手足や顔に塗りたいって来たので対策はバッチリのはずでしたが、アブの群れがいつまでも追ってくるので、常に



「カジノキの果実」

カジノキの果実は食べられませんが美味しくはありません。繊維を採るために古い時代に中国から持ち込まれたものが各地に野生化したとされていますが、もともと日本にも自生していたという説もあり、本来の原産地はよく分かっていません。

ハンドタオルを牛の尾っぽみたいに振り回しながら歩きました。でも花に気を取られてちょっと油断すると顔面に張り付いてきます。無意識に手で払ったらメガネがスパコン！この日は何回メガネを飛ばしたのか。ひとりコントみたいで笑ってしまいます。

開けた場所では所々に生えたカジノキの大木がオレンジグミのような美味しそうな果実をたくさん生らせていました。これをうっかり触れてしまうと、いつまでも指がベタベタして大変なことになります。野鳥に食べてもらってタネを運んでもらう他に、粘着物質で野生動物の体にくっつけて運んでも



「クサギの花」

クサギの花。真っ青な空に純白の花が映える。

らおうって二段構えの戦略なのかもしれません。これはあくまでも私の仮説です。

山道では生い茂った木々が熱気を閉じ込めていません。それでもお日様に焼かれるよりは涼しくてホッと一息つけるし、時折吹きぬける風がヒンヤリ感じられて心地良くて。そして、その風は爽やかな香りまで届けてくれました。クサギの花の香りです。日当たりのよい山道にはたくさんのクサギが暑さや乾燥にもめげず花を咲かせていました。クサギは漢字でかくと「臭木」で、莖や葉に触れると悪臭があるからなので



「クサギの果実」

クサギの果実。晩秋には紅色の星に藍色の玉を載せませす。鳥の目を惹く二色効果です。果実は染料になります。

すが、美しい純白の花からはユリに似た芳香を一面に漂わせます。

クサギは昔から若葉をテンプラやあえ物にして食われてきましたので、クサギナと呼ぶ地域が多くあります。祝島では「しろかあば」の地方名があることを古い植物誌で知りましたが、語源については検討もつきません。

そんなクサギの足元には早くもノコンギクやシロヨメナの花が咲き始めていました。仕事では観賞ギクを栽培したり展示会を周ったりしますが、私はそれよりも素朴な野ギクの花が好きで、晩夏から初冬にかけては各地の野ギクを訪ねて歩いています。アイドルの追っかけをしているようなものですかね～。海岸や岩場など険しい自然の風景とセットで楽しむのが野ギク観賞の醍醐味で、花色や花姿は素朴なものですが、群生美は観賞ギクに負けていません。



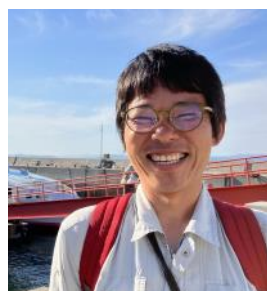
「ノジギク」

上関町の花はノジギク。本州（瀬戸内海沿岸）、四国、九州に分布。開花期は10月下旬から12月（撮影日：2023年11月30日）

クサギの果実が藍色に熟すころ、祝島ではノジギクの花が石垣や山の斜面を飾ります。

植物学者の牧野博士は昭和10年11月27日にノジギク採集に来島し、植物採集行動録に「盛りを少し過ぎ至り、11月15日頃より20日前後が最も良いだろう」と記されています。その当時と比べると年平均気温はずいぶん上昇していて、多くの植物は花の咲く時期がずれてきていますが、ノジギクの開花期は今も昔もほとんど変わっていないようです。日照時間が短くなると花芽を形成する性質（短日植物）なので、気温の影響はあまり大きくないのかもしれない。

そういえば、幼少期を過ごした平生町にもノジギクが自生していて、私はなぜかこの花のことをよく覚えていて、母と手をつないでお大師様にお参りする道にもたくさん咲いていました。ほんやりノジギクの花を眺めていると懐かしさが込み上げてきます。



＜著者紹介＞

内田祐介、通称うっちー。山口県下関市在住。現在は、北九州市立白野江植物公園に勤務。「一緒に楽しむ」をモットーに講演会、園芸講習会、観察会、執筆活動などを行っている。ブログ『うっちーと植物たち。』

<https://blog.goo.ne.jp/kakusuko0628>

わたしが初めて神舞を観たのは、2008年。じつは、祝島上陸もその時が初めてで、4年後の神舞の年、2012年にまさか祝島に嫁いで来るとは夢にも思わなかったことでしたが・・・これも縁、人生何が起こるかわからないものです。それはさておき、8月16日のお昼過ぎ、太鼓の音が聞こえ始めると、多くの船が沖で大きな輪を描きながらゆっくり進み、權伝馬船ではホーランエーの掛け声に青年たちが弾けるように舞い、神様船からは伊美から来られた宮司さん、太夫さん、里楽師さんたちが、笛を吹いたり、ゆったりと手を振ってくださり、スローモーションのように目に映った入船神事は本当に壮大な歴史絵巻のように思えた・・・これが、わたしの神舞初体験でした。折悪しく降り出した雨はどんどん勢いを増し、横殴りになってきた中でも船団は何事もないようにゆっくりと沖を3周して港に入り、拍手でお迎えする中、神様たちが上陸されました。5日間の神舞の始まりに立ち会えたワクワク感はいまだに忘れることはありません。



たくや  
2008年 拓也くん

2012年の神舞では、祝島の住民となり、苫編みなどの準備段階からも参加したり、何より、里楽師さんたちの宿を受け持つという大役もあり、畳の表替え、障子の張替えなど、ずいぶんと気合を入れて民宿の掃除をしたものでした。緊張してお迎えしたものの、伊美のみなさんに優しく接していただき、また、秀人さんが子どもの頃にもうちに泊まられておられたそうで、変わらない部屋を懐かしそうに眺められては、昔話を聞かせていただいた時間、そしてまだ國弘の両親も健在で集合写真を撮ったりした和やかな時間、大切な思い出の1つとなっています。親・子・孫の3世代でお泊りいただいた古澤さんご家族のお話では大切な

歴史に感動し、この先の未来を担う大学生の直樹くんを頼もしく思いました。この年までは、連れて来られる子太夫さんはお一人だったそうで、小学6年生の都留光太郎くんは恥ずかしがりの子太夫さんでした。5日間だけでもご縁のあった子太夫さんの舞を観るときは、僣越ながらも親御さん同様の気分で「ちゃんとできますように」と、ドキドキして見守っていました。顔に汗しながら一生懸命舞っている光太郎くんの姿に涙が出そうでした。また4年後、今度は高校生になっているんだなあと、楽しみに思いながら出船を見送ったのを思い出します。



こうたろう  
2012年 光太郎くん

2016年の神舞。4年の間に一気に背の伸びた光太郎くんに会える楽しみが3倍になった出来事、それはなんと光太郎くんの弟・来夢くんと昊くんの2人も一緒に来てくれたことでした。光太郎くんはずいぶん大人びた気はしましたが、やはり恥ずかしがりなのはそのまま・・・でも、弟くんたちの世話もできるお兄ちゃんになっていました。この年のもう一人の子太夫さん田中統也くんは、宿は違いましたが、来夢くんと同級生ということで、うちの宿にもちょこちょこ遊びに来ていました。2階で笛の音がするのでのぞきに行ったら、子どもたち3人だけで神楽の練習・・・と思いきや、手にしているのは何とハエ叩き！「あ～内緒にしてね。勝手に練習したら怒られるから」と。「わかった、わかった」と言いつつ、あまりに可愛いのので「写真を撮ろうや」というと瞬時にポーズをとる子どもらしさ。これはお宝写真だなあと胸にしまっておきました。この年は、舞小屋と民宿を行ったり来たりしていたので見逃した神楽が多かったのが残念でした。大人っぽくなった直樹くんや光太郎くんの舞、そし



そら      とうや      らいむ  
「お宝写真」 昊くん、統也くん、来夢くん

て、宿で見た顔とは違う緊張した面持ちで汗しながら舞う子太夫さんの統也くん、声がよく通っていました。また4年後の成長を想像しつつ、みなさんを見送りました。コロナ禍となり2020年の神舞が中止となってしまうとは思いませんでした。



2016年 統也くん

8年ぶりの神舞を迎えた2024年の暑い夏。入船神事が始まり、海上の神様船には成長した若者たちの顔が見えました。「みんな大きくなって！」と思いつつ、この子はあの子かな？あ、この3人はもしや都留三兄弟？今回もまた子太夫さんが3人？同世代の里楽師の方々の懐かしいお顔も含めて伊美から来られるみなさんをお迎えすることで、ようやく今年の神舞を実感することができた気がしました。うだる様な暑さの中、舞場までの行列に、直樹くと拓也くんを見つけて声をかけ、2人の零れる様な笑顔に安堵。今回は初日から神楽が舞われるので、權伝馬を漕ぎ終えた秀人さんと一緒に舞場へ。立派になった若者たちの成長には目を見張るばかりでした。翌朝の朝拝に向かう時に、背の高い3人連れ・・・声をかけると都留三兄弟。一番背の高くなったイケメン高校生の昊くん。やんちゃだった面影を良い意味で一番裏切ってくれたのは、社会人らしく落ち着いた感じ

の来夢くん。「僕が一番背が低くなった・・・」と笑う光太郎くんは、いやいやどうして、大人としての会話ができる立派な青年になっていて、この8年間の成長が本当に嬉しく感じられました。



2024年 『花神楽』

老いも若きも、それぞれ舞や演奏に休む間もなく勤しんでいる姿、ありがたく観させていただきました。そろそろ世代交代と口にされていた田中さん親子の鬼の競演も素晴らしかったし、古澤家の新たな3世代の共演は、次回か、その次にはきっと叶うことでしょう。規模は縮小されて、日程も3日間と短縮、伊美の方々には本当に窮屈でお忙しい大変な思いをさせてしまったのではないかと心配が絶えませんでした。舞場の変更などがあり、それに伴ってあちこちにしわ寄せもあり、反省点も多かったと思いつつも、それぞれの精いっぱいのに支えられて、賑やかな神舞を執り行うことができた気がします。祝島と伊美の若者たちがこれからの神舞を盛り上げていってくださることを願いつつ、最後の最後まで伊美のみなさんを乗せた船を見送れる、いつもと同じ防波堤の先で、「また4年後に！」と大きく手を振って見送りました。大切なお縁をいただき、感謝の思いしかありません。本当にお疲れ様！ありがとうございました！



2024年 わたしの中の「四天王」

## 会員交流会 in 東京

武田 俊輔

2024年9月20日の午後、東京近辺に住む祝島ネット21の会員交流会が、東京都府中市のクッキングハウスにて開催されました。このクッキングハウスは会員の松浦幸子さんが運営するレストランです。と同時に何らかの生きづらさを抱えた人たちがともに話し合い、さらにスタッフとして働く福祉施設の活動拠点でもあります。参加した会員はレストランでの祝島のひじきやピワ茶を含む栄養たっぷりの食事をいただき、交流会に臨みました。



「クッキングハウス」にて交流会を開催

参加した会員は6人。それに加えてクッキングハウスで働くスタッフの方々も途中から加わりました。参加した会員メンバーの方は旅行で訪れて触発された方、お連れ合いのルーツが祝島にある方、上関原発・中間貯蔵施設反対運動に関わっていらっしゃる方などさまざまでした。お互いの話をよく聞き合い、またそれぞれの話に触発されつつ会話が弾みました。豆腐のシフォンケーキ（これがとても美味しい）とコーヒーもいただきつつ、それぞれの祝島との出会いや思い、原発・中間貯蔵施設の建設に対する怒りややり切れなさを語り合いました。



この日のランチには祝島のひじきが使われていた



左から、遠藤さん、大島さん、武田さん



左から、山本さん、松岡さん

最後は一緒に合唱して散会したのですが、締めくくりは祝島をテーマにした、笠木透作詞の「豊かな青い海」でした。豊かな青い海と畑、それにいい友達がいれば人生は十分満ち足りているという趣旨のこの歌を共に歌いながら、祝島の人々の生き様と、島で出会う一人一人の島民の方のことを、私自身は思い返していました。

東京での会員交流会は初めてとのことですが、今回お目にかかれた皆さまはもちろん、東京近辺にお住まいの他の会員の方とも交流を深めたいと考えています。今回は素晴らしい機会を誠にありがとうございました。



こんな素敵な看板も用意していただきました

<参加者の皆さんの感想文から抜粋>

・暖かい空間で、祝島のことで繋がって、お話しできてうれしかったです。クッキングハウスの皆さんが歌も歌ってくださり、その皆さんから、自然に祝島への想いが語られるのがすごいなと感じました。

(山本)

・クッキングハウスのランチタイムは豊かな気持ちになれました。みんなが助け合って仕事している姿に感銘を受けました。豊かな自然に囲まれた祝島を大切にしたい。原発のこと、直接ではなくても関わらなくては、と思いました。(松岡)

・いろいろな人と出会えてよかったです。皆さんが祝島に関わりがあるのにびっくり。ランチ、語り合い、ティータイム、歌ったこと、豊かであったかい気持ちになりました。よく、祝島周辺の自然を生物多様性の宝庫と言いますが、多様であること、みなそれぞれであって良いことが、心に深く感じられました。(遠藤)

・美味しいごはん、ケーキを楽しむことができました

た。皆さんからいろいろな話を伺えて、とても充実した時間を過ごせました。神舞のことは、神主なのに分かっていなかった。祝島や上関のことに何かの形で関わりたく思っているのですが、自分のことに追われて、なかなか叶いません。今日、皆さんと会えたことを一つのきっかけにして、また小さなことから取り組みたいと思いました。(大島)

・普段は、学生たちに一方的にしゃべることばかりで、こんな形で語り合えることがありません。祝島に関心を持ち、祝島を想う人たちとこうしてお話ができる機会を持てたことを、とてもうれしく思います。またこうした機会があることを心から望みます。クッキングハウスも素敵な場所でした。(武田)



←松浦さん

交流会会場の提供、スタッフさん、メンバーさんのご参加もありがとうございました

## 祝島自由律俳句(15)

このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、毎回その中から何句かを紹介させていただいております。

神舞や千百年の月渡る  
夏空や權伝馬船はるか往く  
神舞を継ぐ若人に夏の風

篠崎 幸恵

還暦の權伝馬漕ぎ汗拭う  
荒神に抱かれ泣く子に皆笑顔  
出船神事また四年後と扇振る

國弘 秀人

うら嬉し持ち重りする5L梨  
爪先で肌掛け探る島の朝  
朝霧か遠くに低くぼおと鳴る

國弘優子



読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品/作品についてのコメント(あれば)/名前(ペンネーム可)を記入して事務局までお送りください。メールのあて先は [haiku@iwaishima.jp](mailto:haiku@iwaishima.jp) です。

# お知らせ & 募集

## ■祝島観光ガイドマップ（2024年版）ができました

2年ぶりに「祝島観光ガイドマップ」を改訂しました。祝島ネット21の会員の皆さんには、この会報と一緒に配布いたします。祝島のPRにぜひご利用ください。また、イベントなどで必要な場合は、無料で提供いたしますので、事務局まで必要枚数をご連絡ください。



## ■「うちーさんの植物観察会」のご案内

「うちーさんの植物観察会」を下記の日程で開催します。会員の皆様、ご家族やご友人を誘って、ぜひご参加ください。

日時：2024年11月16日（土）

午前10時45分～12時00分（少雨決行）

集合場所：祝島港（定期船乗り場前）

講師：内田祐介さん（通称：うちー）

北九州市立白野江植物公園勤務、グリーンアドバイザー園芸ソムリエ  
観察場所：祝島の宮戸八幡宮付近

参加費：無料

定員：15名

申込み、問合せ先：國弘秀人

（電話 090-8069-5066、メール [kunihiro@iwaishima.jp](mailto:kunihiro@iwaishima.jp)）

※この植物観察会は、（公財）日本離島センターの離島人材育成基金助成事業による助成を受けています。

**うちーさんの植物観察会**  
参加者募集！  
祝島で身近な植物を観察してみませんか？  
園芸ソムリエ「うちーさん」の面白い解説で  
意外な発見があるかも！  
日時：2024年11月16日（土）  
午前10時45分～12時00分（少雨決行）  
集合場所：祝島港（定期船乗り場前）  
講師：内田祐介さん（通称：うちー）  
観察場所：祝島の宮戸八幡宮付近  
参加費：無料 定員：15名  
主催：祝島ネット21  
申込み、問合せ先：國弘秀人  
（電話 090-8069-5066、メール [kunihiro@iwaishima.jp](mailto:kunihiro@iwaishima.jp)）  
講師紹介：内田祐介、通称うちー。山口県下関市在住。現在は、北九州市立白野江植物公園に勤務。「一緒に楽しむ」をモットーに講演会、園芸講習会、観察会、執筆活動などを行っている。ブログ『うつつと絶物たち。』  
<https://blog.goo.ne.jp/kakusuko0628>  
※この植物観察会は、（公財）日本離島センターの離島人材育成基金助成事業による助成を受けています。

## 編集後記

長く暑い夏がようやく終わって、やっと秋らしくなってきました。この夏は8年ぶりに神舞が開催され、島は多くの帰省客や観光客で賑わいました。久しぶりの祝島を堪能された出身者の方もおられたでしょう。私も中学卒業以来、久しぶりに会った人もいて、とても懐かしかったです。さて、今回も私は權伝馬の漕ぎ手をやらせていただきましたが、入船・出船の時に海から防波堤の方を見て、残念ながら防波堤に集まる人の数が前回からはだいぶ減ったなという印象でした。島の人口が減ったこと、そして島のおばさんたちが歳を取って、帰省する家族や親戚の世話ができなくなったことなど、いろいろと理由はあると思いますが、ちょっと寂しく感じました。それでも、神舞という伝統のお祭りを、これからも続けていけるように、みんなで努力し、そして協力していかなければいけないと思いました。尚、神舞期間中に、防府市野島の予備船「レインボーのしま」（定員140名）が室津ー祝島間の臨時便として活躍してくれました。離島同士の協力関係、これからも大切にしていければいいなと思いました。

次号は来年2月頃に発行予定です。どうぞお楽しみに！

（編集長：國弘秀人）

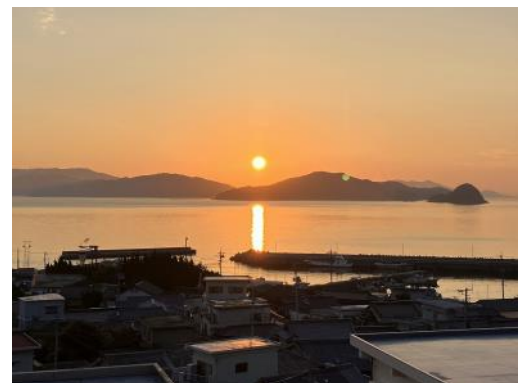
※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。

祝島ネット21会報「いわいしま通信」第74号  
発行日：2024年10月23日（頒価400円）  
発行者：祝島ネット21事務局  
〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島  
ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



出船の日の朝日